

りゅーとぴあ音楽アーツ・マネジメント研修2020

- 1 対象 ○大学生
○公共ホール・劇場において、業務経験年数が5年未満の職員
- 2 目的 ○公共ホール・劇場の歴史的過程を把握し、現在の状況を生んでいる理由を考える。また、公共ホール・劇場に求められている役割の変遷と、それに対してどのようなアプローチ・工夫が実際に行われているのかを学ぶ。
○研修期間中に開催される事業を通して、自主企画実施の現場でどのようなことが行われているのかを体験する。また、ホール機能と地域とのマッチング、さらにその可能性について考える。
- 3 開催期日 2020年8月26日(水)～29日(土)
開始:26日(水)午後2時00分 終了:29日(土)午後4時00分
- 4 開催場所 りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館
- 5 参加費用 ○大学生:無料
○社会人:10,000円
※参加費以外の経費(交通費・宿泊費・食費等)は個人負担となります。
- 6 定員 ○8人程度
- 7 参加者募集期間 2020年4月1日(水)～6月30日(火) ※ただし、定員に達した段階で締め切ります。
- 8 申込方法 次の事項をメール送信してください。7日以内に返信がない場合は、お問い合わせください。
①氏名
②住所
③電話番号
④メールアドレス(スマホ・PC)
⑤自分以外の緊急連絡先
⑥どうしてこの研修に参加しようと思ったか、その理由
⑦この研修で何を知りたいか
- 9 申込先 りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館 事業企画部 音楽企画課 榎本広樹
h-enomoto@ryutopia.or.jp
- 10 カリキュラム内容
- | | |
|---------------------|---|
| ①公共ホール概論 | 歴史と社会的役割の変化をたどったあと、活発な運営がなかなか実現しない原因を探ります。 |
| ②りゅーとぴあ概論 | りゅーとぴあの施設機能、やってきたことを「公共ホール概論」で触れた点と対比して考えます。 |
| ③公共ホール、現場の声 | 一口に公共ホールと言っても、その中の実務、提供すべき社会サービスは多岐にわたります。それぞれのサービス提供の現場を担っている人から、生の声を聞きます。 |
| ④新しい時代のPR | 時代が変わる中で、単なる「発信」に終わらないPR手法について考えます。 |
| ⑤現場で考える、「企画する」ということ | 公共ホールにおける「企画」について考えます。 |
- ※開催期間内の詳細スケジュールは、お申込みの方にお知らせします。
- 11 問い合わせ先 りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館 事業企画部 音楽企画課 榎本広樹
h-enomoto@ryutopia.or.jp
電話:025-224-5614 FAX:025-224-5626
〒951-8132 新潟市中央区一番堀通町3番地2(白山公園内)

①「新潟市」と「リゅーとぴあ」を知ることで、「地域」と「公共ホール」の関係が見えてくる！

3つの専門ホール(コンサートホール・劇場・能楽堂)の集合体であるリゅーとぴあ。リゅーとぴあがなぜ誕生したのかを紐解いていくと、我が国の公共ホールの歴史的变化を踏まえた一つの結果であることがわかります。

また、リゅーとぴあの現在の運営を見ると、施設面だけでなくソフト面や組織の部分でもさまざまな工夫が発見できます。

そしてそれらが、新潟市という本州日本海側唯一の政令指定都市において、どのような活動を行ない、どんな成果を上げているか(あるいは課題を持ち続けているか)を知ることで、公共ホール全体、地域のホールを理解していく多角的な視点を得ることができます。ありていに言うと、公共ホールの現場の実態をどうぞご覧あれ、ということです。

②公共ホールのさまざまな側面を知ることで、公共ホールのミッションと可能性が立体的に見えてくる！

公共ホールは、単なる静的な建物ではありません。実は、さまざまな文化的・社会的サービスを提供している「文化機関」です。

そのさまざまなサービスの現場で働いている人が何を考え、何を目指し、どんなサービスを提供しているのか、そして何を感じているのかを直接聞いてみましょう。

そうすることで、通り一遍ではない公共ホールのあり方、ミッションと、その可能性が見えてくる、のではないかと思います。

③時代と共に社会は変わり、社会が変われば最適なPR手法も変わっていく。では、これからはどうすればいい？

時代が大きく変わっていく中で、最適なPR手法も変わっていきます。必要な人に必要な情報を伝え、行動を促していくには、今、何が大切なのでしょう。今後、どんなことを視野に入れながら作戦を立てて行ったら良いのでしょうか。そのことを考えていくと、実はお客様の「チケットを買う」という行動の前に、満たされなければならないある条件があり、その条件達成のために行うべき作戦があるように思われます。

ここでは、目先のチケットセールスのために何をすべきか、ということと同時に、それ以前に行うべき作戦について考えてみたいと思います。

④新潟の美味しいものを食べることで、地方の魅力が見えてくる！

日本海に面した新潟市は海の幸に恵まれ、また広大な新潟平野ではおいしい米と多様な味わいを楽しむことができる日本酒など、多くの特産品があります。もちろんそれを楽しんでほしいのですが、そこから「地域の魅力」というものに、思いを馳せてください。

新潟の魅力を知ることで、皆さんのふるさとや今後赴かれる地域の魅力を発見する「視力」を養っていただく。それはきっとこの先、皆様がどこで仕事をすることになっても、皆様の武器になる、と考えています。

と言いつつ、実際には「新潟にいる間にどうぞたくさん美味しいものを召し上がってください」、ということになります。

参加者の声(2019参加者アンケートから)

申込初日0時台にメールを送った甲斐のある研修でした。劇場に就職すると決めておきながら、リゅーとぴあにはこんなにも『名物』な職員の皆さま方がいらっしゃる、なんてことをつゆも知らず、常識不足を痛感しました。職員の方々をはじめ、参加者であっても個性溢れる豪華な面々から毎日刺激を受けて、貴重な4日間だったと振り返っています。

拠点は違えど、この業界で働く者として、志や使命にはほとんど差異がないかと思います。公共の立場から芸術をどう見るか、どう愛するか。それらについて考え尽くしたことは私の血肉となり、今後の働きに活かされるものと確信しています。(中略)この度は素敵な出会いをくださり、ほんとうにありがとうございました。

(大学4年)

出身地の芸術文化に貢献していきたいと考えていた私にとって、同じ地方都市で、こんなにもホールが生き生きと活動できていることはとても衝撃的でした。また、様々な専門分野を学んでいる学生やホールの職員の方、行政関係の方々や答えのない質問を毎日ディスカッションしたことは、とても勉強になりました。

率直にいうと、仕事環境や将来性、職場の人間関係等の理由から、ホールで働くということに関してあまりいいイメージがありませんでした。しかし、リゅーとぴあの皆さんに出会って、その考えが変わりました。リゅーとぴあでは、新潟の市民に、自分たちがいいと思った音楽や芸術を届けようという思いが、企画制作や広報にも繋がり、職員の意識が一つになって、充実したソフトが作られていました。地域の文化芸術を支えるチームの一員になって、働いてみたいと思える職場でした。

(大学院生)